

『あなたは高価でも、尊くもない？』 '20/04/19(ライブ礼拝)

聖書箇所: イザヤ書 43 章 1-7 節(旧約 p.1194)

日本政府によって出された「緊急事態宣言」が、“日本全国に”適用されて、いよいよ、ここ日本での新型コロナの感染者も、1万人を超えたという報道がありました。皆さんはいかがお過ごしでしょうか？…正直、ここ数ヶ月で、私たちの生活や礼拝の形式は、かなり、変わってしまったように思われるかも知れません…。しかし、私たちの神であられるイエス様には、何の変化もありません(ヘブル 13:8)。

…と同様に、私たちの“イエス様に対する信仰も愛も”、感謝も、信頼も、何ら変わるものではありません。どうぞ、心からの感謝と献身の思いをもって、今日の礼拝を、イエス様に捧げたいと思います！

<メッセージ>

実は今日、私はいつもとは違う…、かなりの覚悟をして、この講壇に立っております。…と言いますのは、今日、私たちの学ぼうとしている内容が、現代の、多くのキリスト教会が教えている内容とは、全く正反対の方向性を持ったものであるからです。今日のメッセージタイトルをご覧くださいとも分かります通り、「あなたは高価で、尊い」というタイトルで語られるメッセージは数多くあっても…、その逆を行くようなメッセージは、今日、ほとんど語ることがないでしょう…。実際、私たちが今日学ぼうとしている、聖書のみことばにも、はっきりと、こう記されてあります、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。…』って…。

しかし、今、多くのキリスト教会では、このみことばが誤って理解され…、そのために、多くの教会では、間違っただアプローチがなされてしまっていることが多々あります。大変残念なことですが…、間違っただ聖書理解が、正しい適用を生み出すということはありません。そうじゃないでしょうか？…実は、私は、牧会生活を20年以上送ってきて…、「こういった内容のメッセージこそ、今日のキリスト教会にとって必要である！」という確信を持っているので、そのことを、今から皆さんと一緒に分かち合っていきたいと思っております。

命題: 神がイスラエルに与えられた、「特別な恵み」とは？

どうぞ、皆さん。できましたら、今日のみことばであるイザヤ 43:1-7 をお開きください。ここには、紀元前(700 年頃)に活躍した預言者イザヤを通して、イスラエルに語られた、主のみことばが記されてあります。このみことばが教えてくれている内容は、真唯一の神様が、あのイスラエルに与えてくださった、「特別な恵み」について、であります。今日、私たちは、そういったことを学んでいくことによって、真の神様が、如何に恵みや愛に富んだ御方で…、かつ、私たちに必要な存在であられるか？ということをお学ばせたいと思っております。願わくは、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、真の神様の偉大さに触れることができ…、この神様の与えてくださる恵みをご自分のものとしてくださることを願います。まずは、今日のみことばであるイザヤ 43:1-7 を、こちらで読ませていただきます。

- 1 だが、今、ヤコブよ。あなたを造り出した方、【主】はこう仰せられる。イスラエルよ。あなたを形造った方、【主】はこう仰せられる。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。
- 2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡る時も、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。
- 3 わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしは、エジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。
- 4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。

- 5 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。
- 6 わたしは、北に向かって『引き渡せ』と言い、南に向かって『引き止めるな』と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。
- 7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。

I・神様が主導の、救い！(1-3 節)

どうぞ、今読んだみことばの内、1-3 節の部分にご注目ください。ここでは、すべてのものの造り主なる神様こそが、イスラエルのことを救ってくださる！つまりは、神様が主導の“救い”について、教えられてあります。そのことを、今から確認していきたいと思います。

● 神様からの「一方的な選び」

まず、今日のテキストである「イザヤ書」ですが、これは、将来に起こることがたくさん予言されてあることから、「預言書」と呼ばれています。すべてを御存知の神様は、そのみこころの内に、イザヤという人物を通して、多くのことを教えてくださいました。そのイザヤ書が語ってくれているメッセージは、イスラエルが、その罪のゆえに、1度、裁かれはするが、また、回復せられる、というものでした。

今日のみことばの直前、特に、42 章の最後の部分では、イスラエルに対する裁きが語られてあります。どうぞ、イザヤ 42:24-25 をご覧ください。ここには、『24 だれが、ヤコブを、奪い取る者に渡し、イスラエルを、かすめ奪う者に渡したのか。それは【主】ではないか。この方に、私たちは罪を犯し、主の道に歩むことを望まず、そのおしえに聞き従わなかった。25 そこで主は、燃える怒りをこれに注ぎ、激しい戦いをこれに向けた。それがあたりを焼き尽くしても、彼は悟らず、自分に燃えついて、心に留めなかった。』とあって、イスラエルが受ける厳しい裁きが、彼ら自身の罪のせいであったこと…、彼らが神様の教えに聞き従わなかったためであったということが語られています。

しかし、神様の御計画は、そこで終わりません！だから、今日のみことばのイザヤ 43:1 の最初には、『だが…』とあるのです。「確かに、神は、彼らの罪のゆえに、イスラエルを裁かれる！だが、それで終わりではない！必ず、回復せられる！」というのが、今日のみことばの要約であります。

今日のみことばで、『ヤコブ』とあるのは、創世記に出てくる、この『ヤコブ』という人物が、神の御使いと戦って…、あの有名な『イスラエル』という名前と神様からの祝福を得たからです。彼こそは、イスラエルの起源でもあったと言い得るわけなのです。今日のみことばの 1 節で、イザヤは、主なる神様のことを、こう説明しています、『あなたを造り出した方』って…。また、主なる神様は、イスラエルに向かって、こうおっしゃっておられます、『あなたを形造った方』って…。そうですね？でも、それだけではありません。ここでは、神様がイスラエルを贖ったとか、神様がイスラエルの名を呼んだとか、彼らが、まだ、神様のものである、という話がなされています。つまり、天の神様は、罪を犯したからと言って、イスラエルのことを完全に見捨てられたのではなかったのです！

実は、イスラエルという国は、今もまだ、神様のみこころにあつて、特別な役目を与えられています…。そのことの証拠として…、黙示録などを見てみますと、そこには、イスラエルが、また、神様の御計画の内に、大きな活躍をする？というような預言がなされてあります。神様は、そのようなイスラエルを、一方的に選ばれました。その理由は、イスラエルが、特別、清かったからとか…、何かの能力があったから、ではありません。そこには、神様にしか分からない、一方的な選びがあったとしか言えないのです。

● 神の「完全なご加護」

さて、その神様は、イスラエルのことを、今もまだ特別に覚えておられる！というのが、ここのメッセージにあります。そのゆえに、イスラエルという国は、今に至るまで、神様の完全な御守りを受けているのです。今日のみことばの 2 節にも書かれています通り、現に、イスラエルの民衆たちは、出エジプトをした時、『水の中を』歩いたことがありました(出エジプト記 14 章)。その後、約束の地カナンへ攻め入る時には、川を渡ろうとした時、その水が止まった時もありました(ヨシュア記 3 章)。また、今日のみことばが書かれた後の時代のことで、ダニエル記には、3人の若者たちが燃える炉の中に投げ込まれても、助かったということが記されています(ダニエル記 3 章)。

このように、イスラエルの神様は、裁きの中にあつたイスラエルに対しても、神様を信じ…、その神様に従っていこうとする者たちのことを、特に顧みて…、彼らのことを、特別な奇蹟を用いるなどして、守ってくださいました。その理由が、今日のみことばの 3 節前半で語られています。それが、『わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主である“からだ”。…』ということです。

このように、天の神様は、1度、救われた者たちのことを、決して、見捨てられません！確かに、その者たちが間違つた歩みをしていった時には、それに対する厳しい懲らしめを下されることもあります。実は、そのような懲らしめもまた、神様の恵みなのです。だから、新約聖書のヘブル 12:6-7 には、こうあります、『6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。』7 訓練と思つて耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。』って…。また、ヘブル 12:11 には、『すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。』とある通りです。

このように、天の神様は、1度救ってくださった者たちのことを見捨てて、放っておられることはありません。神様は、常に、救われた者たちのことを顧みて…、特別に憐れんで…、ある時には優しく、また、ある時には厳しく、導いていくくださるのです。実は、こういったような、神様の導きも、また、神様の与えてくださる「救い」の一部分なのです。だって、私たち人間は、このような導きと言うか、訓練を通して、少しずつ、清められ…、学ばせられて、成長していくわけじゃないですか！…そうでしょ？

II・神様からの、大きな「愛」！(3-6 節)

さて、問題は、今日のみことばの 3 節以降であります。今度は、今日のみことばの 3-6 節から、その神様からの大きな「愛」というものについて見ていきたいと思つています。果たして、神様の愛とは、どのようなものであり…、私たちは、神様の愛を、どのように受け取るべきなのでしょう？ 3 節の部分が、先程と重なってしまっていますが、もう1度、今日のみことばの内、3-6 節の部分を読ませていただきます。

- わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしは、エジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。
- わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。
- 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。
- わたしは、北に向かって『引き渡せ』と言ひ、南に向かって『引き止めるな』と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。

● 2種類の愛、2種類の思い？

さて、ここまで、もう十分見てきましたように、天の神様は、このみことばを、あのヤコブを先祖とする、イスラエルの民たちに対して、語っておられます。言い換えると、全人類の内、“イスラエルの民族だけ”を指して、そのイスラエル民族のことを、“別の民族と比較して”、特別に愛している！とおっしゃっているわけですね。…にも関わらず、現代のキリスト教会は、ここ 4 節の、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。…』という部分だけを、ここの文脈から抜き出して、すべての民族…、すべての人に対して、「天の神様は、私たちのことを皆、高価で尊いと見てくださっています。神は、あなたのことを愛している！とおっしゃってくださっていますよ！」と教えます。果たして、それは正しいことでしょうか？

確かに…、前提として、天の神様は、私たち人類のすべてを愛してくださっています。だから、例えば、山上の説教のマイ 5:44-45 にも、『44 しかし、わたしはあなたがたに言ひます。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上げ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。』とあって、天の神様は、すべての人を愛して…、良くしてくださっているように、私たちもまた、この神様にならって、すべての人を愛して、良くしてやりなさい！ということが教えられています。

しかし、ある意味、残念なことも知れませんが、神様からの愛というものは、すべての人に対して、皆、平等に注がれている、ということではありません。確かに、たつた今、確認いたしましたように、太陽や雨などといったような自然から受ける恵みに関しては、地域の差こそあれ、信者と不信者の区別なく…、皆、同じように、その恵みに預かることができます。

しかし、皆さんは、こういったみことばがあることも、よくご存知だと思います、『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ…』(ローマ 9:13、マラキ 1:2-3)って…。これらの聖書のみことばは、「神様から私たち人間に注がれる愛は、素晴らしく恵みに富んだもので…、とんでもなく、大きなものである！」とは教えていますが、でも、だからと言って、神様からの愛が、私たち人間すべてに対して、同じように、また、均等に注がれている！とは教えていません。そうですね？例えば、あのイエス様でも、福音書には、『(イエス様が)愛された弟子』(ヨハネ 21:20)という表現があって、12 弟子たちの中でも、イエス様の愛？が、必ずしも、均等ではなかったことがうかがえます。

だから、今日のみことばにも、エジプトをイスラエルの身代金にしたという話がなされてあるわけですね。『身代金』というのは、皆さんも、よくご存知のように、誘拐事件などで使われますが、あるものとあるものを交換するわけですが…、こつちとしては、より価値がある…、大切なものの方を、そうではないものと交換するわけで、誘拐された人物の方に、より大きな価値を認めるから、多くの人たちは、大金を払ってでも、引き換えにするわけですよね？ここ 3 節では、『クシュ』と『セバ』という地名が挙がっています。『クシュ』というのは、今で言うエジプトの南エチオピアの辺りになります。ちょうど、以前に騒がれていた南スーダンの東辺りでしょうか。また、『セバ』というのは、今のアラビア半島の一部を指しています。でも、これらが、どこを指していようと、あまり重要ではありません。

要は、今日のみことばが教えてくれている、神様からの愛は、特に、イスラエルに対するものであって、神は、特に、イスラエルのことを愛し…、特別に顧みてくださっているということでもあります。ある意味、残念ながら、神様からの愛というものは、人類のすべてに対して…、皆、同じように注がれているものではありません！しかし、今、多くのキリスト教会が、このみことばを用いて、誰でも彼でも、「あなたは、神に愛されていますよ！神は、すべての人のことを、高価で尊い！と見てくださっていますよ！」というように語っています。でも、そういったことは、明らかに、正しいメッセージではありません！そうじゃないでしょうか？

例えば、ある時、イエス様は、弟子のシモン・ペテロに対して、『下がれ！サタン！』（マルコ 8:33）と言って、叱られたことがありますが…、でも、だからと言って、イエス様が、いつも、ペテロに対して、距離を置いておかれたとか、いつもペテロのことをサタン呼ばわりしていたわけではありませんよね？あくまでも、イエス様が、ペテロに対して、「サタン」と言われたのは、その時の一瞬の出来事であって、それには、それなりの理由と言うか、その時の状況があつてのことなのです。だから、私たちは、聖書のみことばに限らず、様々な言葉を解釈するに当たって、その時の状況や文脈というものを、よくよく観察しないとイケないわけなのです。でも、それが、多くの教会ではなされてない！というのが、現状なのです。

● 神が、価値ある者としてくださった！

私が、インターネット等で多くのメッセージを聴きますと、ほとんどの教会が、みことばの中にある『あなた』という言葉の説明（＝解釈すること）も…、限定することもなく、すべての人を対象に、「あなたは高価で尊い！」と言われていると説明し…、その根拠を、例えば、創世記 1:26 のようなみことばに置いているようです。つまり、私たち人間が、神様に似せた存在として造られたから価値があるとか…、私たち人間一人ひとりに個性があつて、皆、掛け替えの無い存在だから、価値があるのだ！と教えます。しかし、もし、そうだとしたら、それは、イスラエルだけに当てはまりません。そうですね？しかも、多くの教会は、このみことばの解釈と言うか、「高価で尊い」ということの根拠を、ほとんどすべての場合において、どこか全く別の聖句を持ち出してきて、説明しています。果たして、それは、正しい聖書解釈でしょうか？

実は、イスラエルが、神様の前に高価で尊いとされる、その根拠は、このみことばに記されています。⇒それは、神様が、彼らのことを選んでくださったからです！今日のみことばでも、こう教えられています、1 節、『…わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。』とか…、また、3 節、『…わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。』とか…。皆さん、分かってくださいます？…つまり、天の神様がイスラエルを選ばれたから…、だから、その選ばれたイスラエルに価値があるのです！

どうぞ、このみことばを、もう1度観察してみてください。一体、誰がイスラエルのことを贖ったのでしょうか？一体、誰が、イスラエルの名を呼ばれたのでしょうか？⇒天の神様です！そうですね？すべて、神様がこれらの行動の主人公であり…、神様こそが、すべての源なのです！そう！神様が、イスラエルのことを選ばれたのです！実は、その…、選びこそ、価値があり…、選びこそが理由なのです。それ以上のことは、「分からない…」としか言いようがありません。

どうぞ、皆さん。例えば、イスラエルの祖先とされた、あのアブラハムのことを思い出してみてくださいます？アブラハムはどうやって救われました？…彼が素晴らしい人間であつたからですか？それとも、何か価値があつたからですか？聖書のみことばは、どう教えてくれていますか？⇒ローマ 4 章のみことばは、「信仰によって、アブラハムは義とされた！」と教えます。じゃあ、その信仰を与えてくださったのは誰でしょうか？

ローマ 3 章のみことばは、「義人はいない！ 1人もいない！」と教えます。また、こうも教えます、「神を求める人はいない！」って…。そうですね？…ある時、イエス様は、こう教えてくださいました。ヨハネ 6:44、『わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、“だれも”わたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。』って…。また、ヨハネ 14:6 で、イエス様は、『わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』ということを教えてくださいました。じゃあ、あのアブラハムは、どうして救われたのでしょうか？…アブラハムは、旧約時代の信者だったから、何か別の方法で救われたのでしょうか？⇒いいえ。アブラハムも私たちと同じ、「救い主を信じる」という信仰を通して、神様の憐れみによって救われたのです！

エペソ 1:4 に、『すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあつて選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。』とありますように、アブラハムが救われるということは、永遠の昔から、神様のみこころの内に定まっていたのです。…つまりは、すべて、神様のみこころであり、神の御計画であつたのです！そうして、神が救われた者たちのことを変えてくださって、価値ある者、キリストに似た者へと変えていってくださいます！

確かに、かつての人間たち…、あのアダムとエバとは、造り主なる神様から、清く、罪の無い存在として造られました。しかし、それが、あの罪によって…、また、神様を拒んだことで、台無しになってしまいました。私たちが、つい2週間前に学んだ、エペソ 2 章には、「かつて、私たちは、自分たちが犯したその罪過と罪過の中に死んでいた…」ということを教えてくださいました…。そのような、本来の価値を失ってしまった私たち人間のことを、神様が選び…、そうして、買い戻してくださったのです。そうですね？

だから、そのエペソ 2 章のみことばは、かつての私たち…、つまり、すべての人間たちが、本当は、神様の御怒りを受けるべきであつた…、つまり、神様からの裁きを受けて当然であつた、ということを教えてくださいました。…しかし、そんな私たちを、神様が一方的に愛し…、憐れんでくださったがゆえに、私たちは救われました。それがキリストです！神様の選びとは、そのように、理由らしい理由が無いのです！もし、あるとすれば、それは神様です！…良いでしょうか？皆さん？私たち人間の側に、何か選ばれるべき理由があつたのではなく…、神様の側にこそ、理由があつたのです。

正直言って、私が、近年に語られている、「あなたは高価で尊い！あなたには価値がある！」というメッセージを聴いて問題と感じるのは、多くの教会が、救われる価値を“自分たちの側に”見出そうとするからです。言い換えれば、その人たちは、自分自身を神の前に誇っていると自覚し、「私には価値があるんだ！私は、唯一無二の、掛け替えの無い存在なんだ！」って…。でも、本当に、そうですね？すべてのものの造り主なる神様は、そこらにある石ころからでも、『アブラハムの子孫』を造れるのではなかったでしょうか(マタイ 3:9、ルカ 3:8)？

旧約聖書のエレミヤ書には、こうあります、『誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは【主】であつて、地に恵みと公義と正義を行う者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ。——【主】の御告げ——』(エレミヤ 9:24)って…。また、1 コリント 1:28-31 にも、こう教えられています。『28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。30 しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとにられました。31 まさしく、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。』って…。このように、私たちの救いや選びの根拠は、ただ、神様にあります。だから、私たちは、自分を誇るのではなく、神様を誇り…、神様に感謝すべきなのです。違います？

Ⅲ・生きていくための、目的！(7 節)

それでは、最後のポイントに移っていきましょう。神が、イスラエルに与えられた恵みの3つ目、それは、彼らが生きていくための、“目的”であります。天の神様は、私たちに、新しい生き方とその使命とを与えてくださるのです。どうぞ、もう1度、今日のみことばの 7 節をご覧ください。

7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。

●「神の所有物」としてくださった！

今読んだみことばには、素晴らしいことが記されてありました。何と、神様は、イスラエルのことを指して、『わたしの名で呼ばれる(すべての)者…』とおっしゃってくださっているのです！…例えば、皆さんは、誰か恥ずかしい人と自分とが何かの関係で繋がっていることを知られたいと思います？…きっと、多くの方は、そうではないと思います。しかし、天の神様は、「自分と関係のある名で呼ばれる者たち、すべて」のことを指して、彼らは、『わたしの栄光のために』造った！とおっしゃってくださっています。実は、神が、その昔、ヤコブに与えられた、『イスラエル』という名前の内、『エル』は「神」を意味します。そして、『イスラ』の部分は、ヘブル語の「戦う」(サーラー)から来ていると言われています。ヤコブが、神と戦って、その名前を得たからです。つまり、皆さんも、よくご存知のように、天の神様が、このイスラエルという名前を、彼らに与えてくださったのです、「これはわたしの民だ！」って…。

実は、私たちクリスチャンも、それと同様です。私たちが、「クリスチャン」と呼ぶ、その「クリスト」の部分は、「キリスト」を表わしています。私たちが、キリストのものだとされたからです！皆さんもご存知のように、私たちは、イエス様を信じて、救われたことによって、神様によって、新しく造り変えられたのです(Ⅱコリント 5:17)！神の所有物とされたのです！もう、イエス様を信じた、あなたは、あなた自身のものではありません。神様によって買い取られた神の奴隷だと…、そうⅠコリント 6 章のみことばは教えますでしょ？

●神のご性質を受け継がせてくださった！

そんなあなたには、神様が、新しい務めを与えてくださいました。それは、神様のために、神様の栄光を現わすために生きていく！ということでもあります。かつての私たちも皆、自分を1番として、自分のために、自分の都合だけを優先して生きておりました。しかし、イスラエルの民たちは、真の神様選ばれ、その神様に従っていくことによって、この後も、神様のために用いられ…、神様の栄光を現わしていききました。もちろん、神によって選ばれた、イスラエルの民族として完全ではありません…。しかし、彼らの歩みを通して…、また、彼らの歴史を通して、真の神様がおられ…、彼らと共にあることが証しされました。

クリスチャンである皆さん。実は、あなたも、この神様の栄光を現わすために、今、生かされています。だから、Ⅰコリント 6:19-20のみことばは、こう教えますでしょ？『19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。 20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。』…それと、つい最近学んだエペソ 2:8-10 でも、『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。 9 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。 10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』

⇒いかがでしょう？今紹介したみことばは、「あなたに価値があるから、あなたは救われたのですよ！救いは、あなた自身から出てきたのです…」みたいなことを教えてくれていました？…それとも、「あなたが救われたのは、ただ、神様からの恵みによるものです！あなた自身から出てきたものではない！」ということを教えてくれています？…一体、どちらでしょう？

天の神様は、御自分の栄光のために、皆さんのことを選び…、あなたのことを造り変え…、そして、神に似た者へと変えてくださったのです。いえ、今現在も、神に似た者へと変えられていっているはずですよ。今、天の神様が、あなたに願っておられるのは、あなたが、その生き方によって、神様を現わしていかれることです。どうぞ、日々、神様をあげめ…、神様のみことばに従っていくことによって、この神様と共に歩む者であっていただきたいと思えます。

そうして、まだ、イエス様をお信じになつておられない皆さん。神様は、もちろん、皆さんのことも愛して下さっています。だから、ひとり子であるイエス様を、あなたの罪の身代わりとしてくださったのです！でも、もしも、あなたが、この神様のことを…、神様の愛を拒まれるなら、あなたに注がれる恵みは、今以上のものではありません。…そうして、その神様からの恵みは、いつか終わる時がやってきます。もしも、この神様からの恵みが無くなってしまつたら…、つまり、あなたが裁きの場所に下つてしまつたら、もう、そこに救いはありません。一切の恵みもありません。どうぞ、そうなる前に、この神様が差し出してくださっている救いを、ご自分のものとしてくださいますように、お願いいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。